

## 本校の歩みと存在意義

### 既存の価値観にとらわれない学校づくりのはじまり

「なぜこの地方都市の太田市にこれだけ特色のある学校があるのですか。なぜ太田市に設立されたのですか？」と視察者からよく聞かれます。その答えは、先見の明を持って市政・教育・社会を考える太田市長の清水聖義（本校理事長）がいたからです。北関東随一の工業都市である太田市は海外進出企業も多いため、清水は英語教育充実の必要性を予てから感じていました。そのため、英語で授業を行っていたパイオニア的存在の会津大学や加藤学園を視察するなど、将来の可能性に向け模索を続けていました。

そんな中、2002年に国が構造改革の柱と位置付ける特区構想の提案がありました。太田市は英語教育特区として英語イマージョン校の私学校設立の申請を2003年4月1日に行い、4月21日に構造特区の第1号として当時の小泉総理大臣から認定を受けました。新しい発想を持った学校として既存の価値観にとらわれない学校づくりが始まりました。2005年4月6日、1年生107名と4年生59名と教員15名で、“今までにない日本人”の育成を目指し、開校と入学の式典を行いました。

### 人間性に焦点を当てたオープン教育の導入

校舎は平屋でオープンな空間を多く設けました。教育カリキュラムはオープン教育を重視した指導を目指しました。オープン教育は、イギリスで始まったインフォーマル・エデュケーションと言われる教育改革の運動で、チョーク&トークの教師主導、教科書中心の授業から、子どもたちが夢中になって取り組む課題作りを重視した、子どもたちの人間性に焦点を当てた教育改革です。イマージョン教育は、家族と一緒に日本で暮らし日本文化や確かな日本語と日本人のアイデンティティーを身に付けた上に英語の習得を目指す上で、これ以上の方法は無いと言われている革新的言語教育方法です。オープン教育の多面的で柔軟な思考、論理的な考え、クリティカルシンキングを強調し、その教育理念を取り入れたイマージョン教育は、単なる言語の習得を超えるものです。オープン教育はイマージョン教育の基盤をなすものであると言えます。

### 子どもたちの考える力を育む、多様性に溢れた学校教育

開校当初は、第二言語で学習内容を習得できるか、日本語の習得は大丈夫か、英語よりもまず日本語の習得が重要だ、という意見も寄せられました。しかし、子どもたちは一ヶ月もしないうちに「先生の言っていることはみんな分かる」と。当初は分かりやすい英語で語りかけているのですから当然と言えば当然です。ヒアリング能力は一番早く身につきます。そしてネイティブスピーカーの通常の速さの英語を聞いているうちに、英語でそのまま理解していくようになっていきます。

一般般教科の7割を英語で学んでいるといっても、起きている時間の3割にしかありません。自宅に帰れば圧倒的に日本語環境の中にいるわけですから日本語をだめにしようとしてもだめになることはありません。学習内容についても、文科省の全国学力・学習状況調査でも全国平均よりも大変高い点数をとっています。特に思考し応用する分野では圧倒的に平均よりも高い成績をあげています。

次第に学習内容や日本語の習得の不安な質問は無くなりました。多国籍のネイティブ教師と海外経験の豊かな日本人教職員の中で学んでいくに従い、英語の習得を考えて入学した子どもたちは次第に第二言語の習得から第二言語で習得した内容に興味が移っていきます。外国の立場で日本を見る、ディベートをする、エッセイを書く、プレゼンテーションをすることにより、習得する内容に興味に移り、英語の習得よりも多面的で柔軟な思考、論理的な考え、クリティカルシンキング力が身についたことに価値を見いだしていきます。イマージョン教育は言語の習得を超える素晴らしい成果があると。

### 中高等部開校、そしてバカロレア導入。来るべき未来へ羽ばたく児童、生徒の育成

2008年4月に中等部が発足し、西本町キャンパスで53名の中等部進級式が行われました。2011年4月には高等部が発足し、中高等部は内ヶ島キャンパス（群馬松嶺福祉短大校舎校地買収）へ移転、初等部の西本町キャンパスと2キャンパスに分離することになりました。東日本大震災のため、高等部開校式典は当初の予定が延期され、9月21日にソプラノ歌手の中嶋影子女史を迎えて行われました。5月にはIB（インターナショナル・バカロレア）の事前審査、9月の最終審査では授業見学、教師・保護者・生徒へのイン

タビュ－や初等部教員へのヒアリングが行われ、10月20日に国際バカロレア機構からの公式認定許可書  
が送付されました。2012年4月高等部2年生からのIBディプロマ・プログラムがスタートしました。

### **本校の存在意義**

我々の学校GKAは、新しい社会・教育のうねりの先を行っている個性豊かな学校です。日本の教育の未  
来を指向している学校とも言えます。9年生（中学3年生）の生徒は大学入試センターの英語テストを  
「簡単。全部分かる。」というほどの高い英語力を持っていますから、大学入試には大変有利です。しか  
し、我々の学校は、英語習得によって大学入試が有利になるための学校ではありません。大学入試を越え  
る大きな価値のある学校です。自分だけが豊かな生活を送りたいという勝ち組を作るための学校でもあり  
ません。自由で柔軟な発想を大事にするオープンな気質が子どもの呼吸する大気に漂っている学校であ  
り、グローバルな世界で新しい価値観を創造できる人間の育成を学校なのです。そこに本校の存在意義が  
あります。